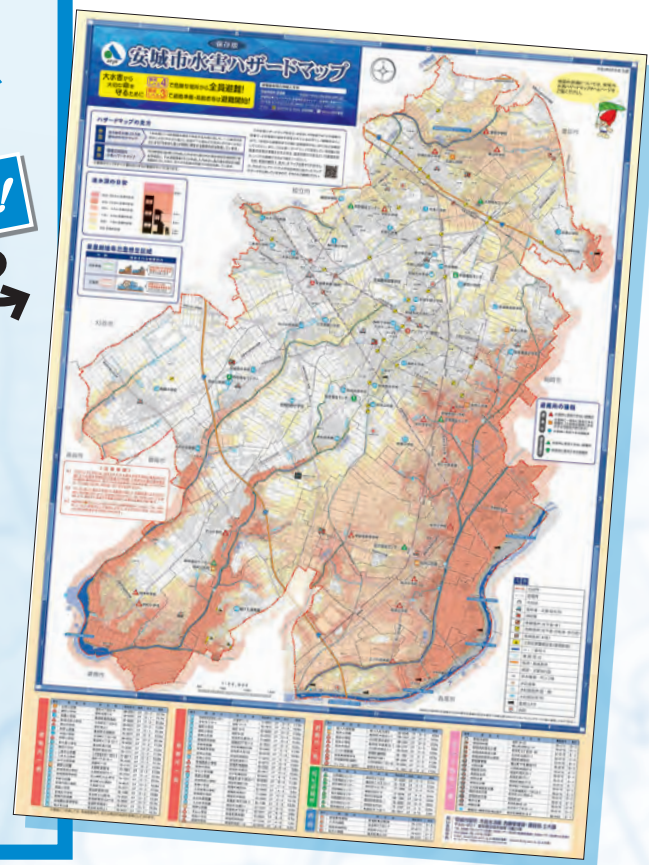


水害ハザードマップが 新しくなりました

New!

近年、全国的に想定を超える大雨による河川の氾濫や土砂災害等が発生し、広範囲にわたって甚大な被害を及ぼしています。こうした現状を背景として、平成27年に水防法の改正が行われ、国土交通省と愛知県は想定し得る最大規模(1000年に1回程度)の大雨を前提とした浸水想定を公表しています。これに伴い、本市も水害ハザードマップの全面改定を行い、各世帯への配布を予定しています。

また、市HPで、データ版(全体マップと小学校区単位で拡大したマップ)を掲載します(右記QRコードから参照可)。



主な変更点

①浸水想定を見直しました

新しいハザードマップでは、矢作川・鹿乗川・猿渡川・長田川等それぞれの河川において、想定し得る最大規模(1000年に1回程度)の大雨が降った場合の浸水区域を想定しています。

②あらゆる水害リスクを重ね合わせました

水害には、河川の氾濫や堤防の決壊によって起こる「外水氾濫」と、降った雨が水路や下水道等で排水しきれなくなることによって起こる「内水氾濫」があります。マップの表面ではこれらの浸水想定に加え、堤防の決壊によって家屋倒壊のおそれのある区域等も重ね合わせて掲載し、複数の水害リスクを確認できるようになっています。

③河川管理主体別のハザードマップを掲載しました

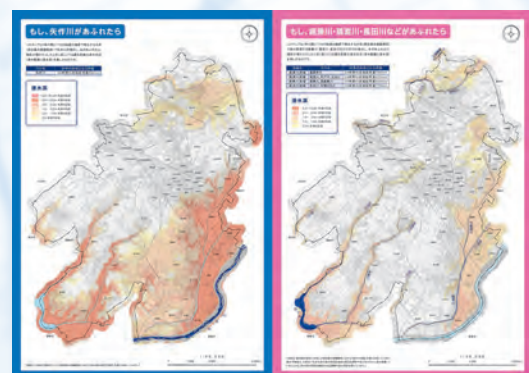
流域面積の大きい矢作川と市内を流れる中小河川等とは、氾濫の発生頻度は異なり、表面で重ね合わせた水害が必ずしも同時に発生するとは限りません。マップの裏面には、国管理河川(矢作川)と県管理河川(鹿乗川・猿渡川・長田川等)の外水氾濫における浸水想定と、内水氾濫の浸水想定を個別に記載しています。

④家屋倒壊等氾濫想定区域を掲載しました

矢作川等の堤防が決壊した場合、あふれた水の流れによって木造家屋等の建物が流出・倒壊するおそれがあります。このようなリスクが想定される「家屋倒壊等氾濫想定区域」では、大規模水害時には早期立ち退き避難が必要になります。マップでは、この区域を赤や緑のメッシュで色分けしています(右図)。



平成12年東海豪雨翌日の矢作川
(東海道新幹線付近)



ハザードマップ裏面(左が矢作川、右側が
鹿乗川・猿渡川・長田川等の浸水想定)



で囲まれた箇所が
家屋倒壊等氾濫想定区域

水害ハザードマップの見方・使い方

①浸水深及び浸水範囲を確認しましょう

マップでは河川の氾濫等によって生じる浸水の範囲や深さが色で示されています。浸水深の目安(右図)と照らし合わせ、自宅や学校・職場周辺の水害リスクを事前に確認しておきましょう。

②早期立ち退き避難が必要な区域を確認しましょう

家屋倒壊等氾濫想定区域や浸水深が建物の最上階を超えるような地域は、屋内避難による安全が確保できないため、早期立ち退きが必要になります。避難勧告等(警戒レベル3・4(下表参照))が発令された際には、より早く、確実に、浸水区域外の安全な避難所等に避難してください。

③避難場所や避難ルートを確認しましょう

最近のコロナ禍においては、安全が確保できる場合は、市が指定する避難所に限らず、在宅避難や親戚・友人宅、ホテル等様々な避難先を検討することが大切です。また、周囲の状況が確認しづらい夜間の避難や、既に浸水が発生している状況等あらゆる事態を想定し、事前に最も安全な避難ルートを確認しておきましょう。

浸水深の目安



避難所の場所や危険箇所を
あらかじめ確認しておきましょう

避難のタイミング

命を守るためには避難すべきタイミングも重要です。その目安となるのが5段階の「警戒レベル」です。これは集中豪雨や台風等によって、水害や土砂災害等が発生する恐れがあるとき、災害発生危険度ととるべき行動を直感的に伝えるための情報です。これらの情報は、テレビ・ラジオ・市HP等を通じて発信されます。マップの裏面では、警戒レベルや防災気象情報に関する説明等、避難行動を考える上で必要な情報を掲載していますので、事前に確認しておきましょう。

警戒レベル	とるべき行動	避難情報
警戒レベル5	命を守る行動を 既に災害が発生しています。命を守るための最善の行動をとりましょう	災害発生情報
警戒レベル4	全員避難 家族や近所の人と助け合いながら、速やかに避難を開始してください	避難勧告、避難指示(緊急)
警戒レベル3	高齢者や障害者等は避難 避難に時間を要する人や避難行動要支援者は避難を始めてください	避難準備・高齢者等避難開始
警戒レベル2	避難行動を確認 避難場所や避難経路、避難のタイミング等を再確認してください	注意報

避難に必要な情報は自ら集めましょう

水害に関する情報は地震のように突発的に起こる災害とは異なり、気象予報や河川カメラの映像等から事前に、又はリアルタイムで入手することができます。日頃から情報の見方に慣れておき、「市から届く情報」と「自ら集める情報」を整理し、危険が迫ったときに余裕を持った避難行動がとれるように備えましょう。

市から届く情報	自ら集める情報
安全安心情報メール 市防災ラジオ	市HP、市広報フェイスブック、市公式ツイッター「KATCH&Pitch地域情報」「Yahoo!防災」等のアプリ 安城市河川水位観測システム 愛知県川の防災情報 国土交通省川の防災情報 気象庁HP 等

